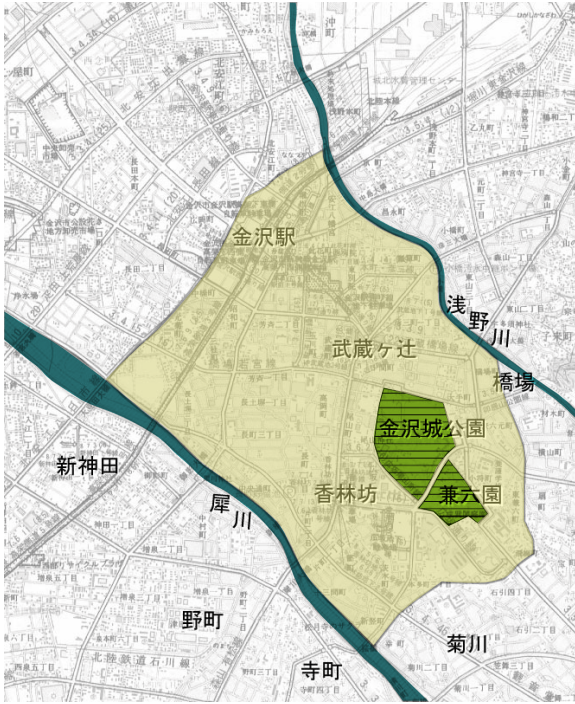


金沢都市圏の中心部・高齢者等の交通特性

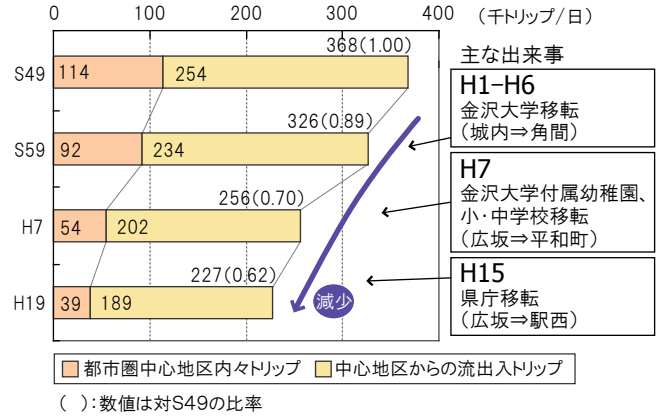
中心部の交通特性

金沢市中心部の人の動きは4割程度減少。(S49対比)
私事目的の滞留時間は自動車利用に比べ、公共交通利用者の方が長い。
中心部内々の交通では、徒歩・自転車利用が約70%を占めている。

●金沢市中心部

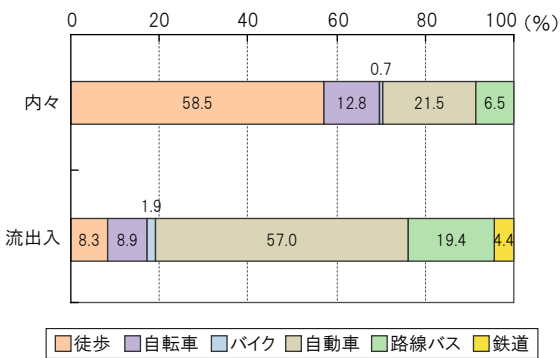


●流動種類別交通量の変化



・中心部の人の動きは、S49年から減少を続けており、H19年時点で38%の減少となっています。また、中心地区内々の人の動きについても34%の減少となっています。

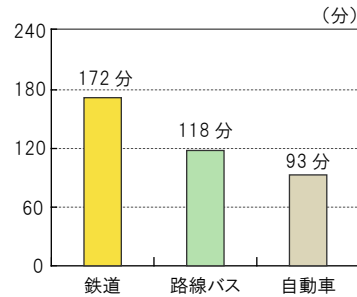
●流動種類別の代表交通手段(H19)



・中心部内々の交通の約59%が徒歩、約13%が自転車を利用しています。
 ・中心部流出入では約57%が自動車を利用しています。

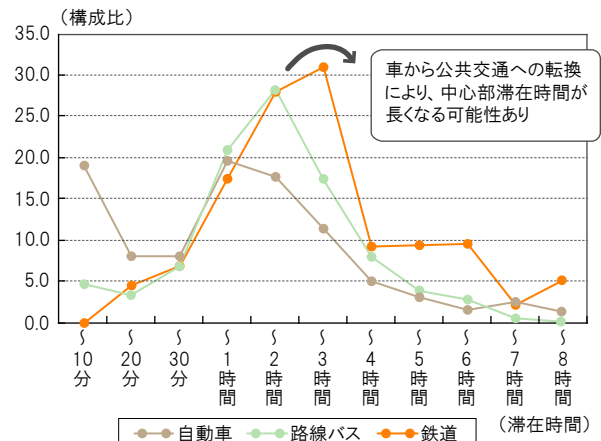


●私事目的手段別平均滞留時間(H19)



・鉄道、路線バス利用者の滞留時間は、自動車に比べて、鉄道では約80分、路線バスでは約25分ほど長くなっています。

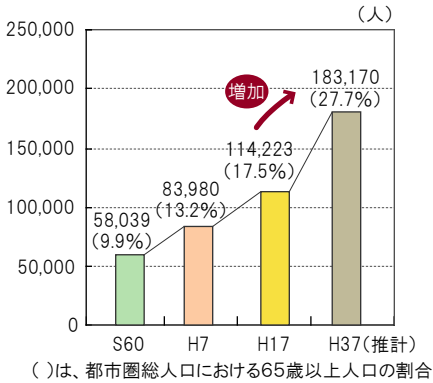
●私事目的手段別滞留時間(H19)



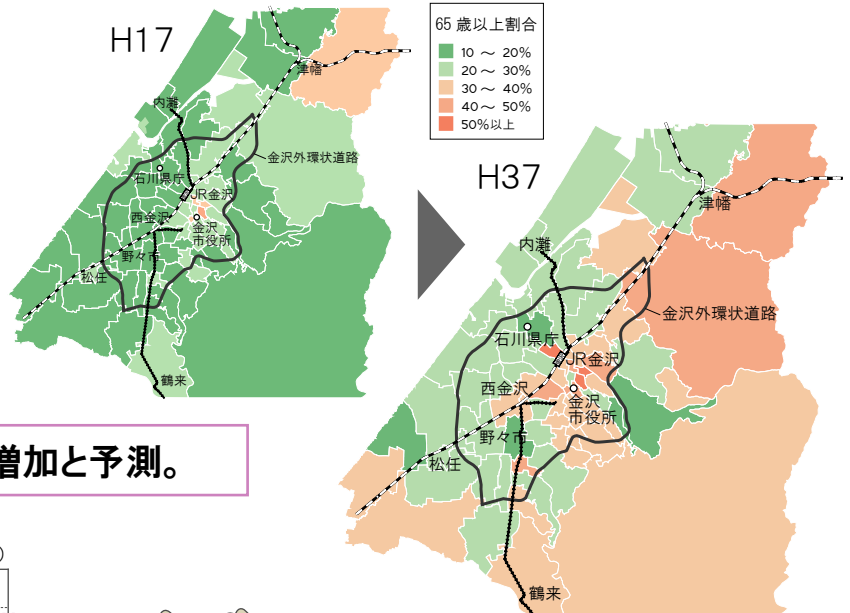
● 高齢者等の交通特性

**高齢化率は、今後も継続して増加。
特に、金沢市中心部や津幡町周辺で高くなる傾向。**

● 65歳以上人口の推移

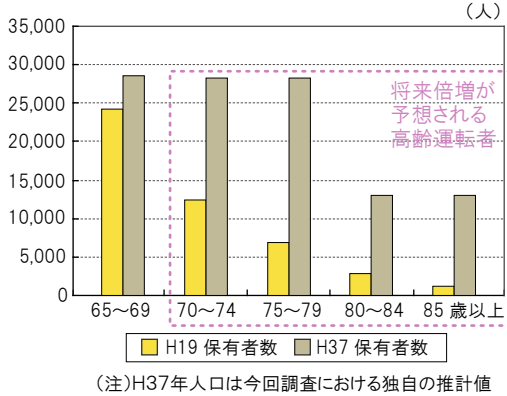


● 65歳以上人口の割合(H17-37)



高齢者ドライバーは今後著しく増加と予測。

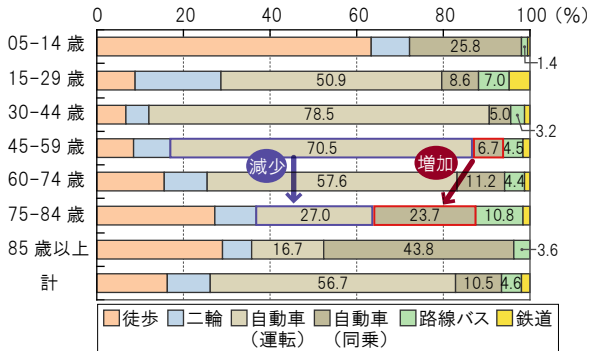
● 65歳以上免許保有者数



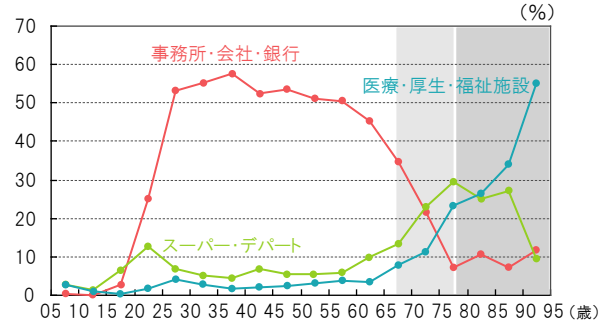
・高齢者ドライバーは、H19年の約5万人に対して、H37年には約11万7千人と推計され、今後18年間で約6万7千人増加と予測されます。特に、70歳以上で増加が著しくなると考えられます。

**自動車の同乗、公共交通の利用率が75歳を境に大幅に増加。
なお、利用目的として、医療、スーパー・デパートなどへの需要が高い。**

● 年齢階層別の代表交通手段利用率(H19)



● 年齢階層別目的施設構成(H19)



・高齢化によって自動車利用が約44%減少し、自動車(同乗)約17%、路線バスの利用が約6%増加しています。(45-59歳⇒75-84歳の変化)

・高齢化に伴い、医療・福祉施設、スーパー・デパートの利用が増加し、特に、70歳あたりから医療・福祉施設への需要が高くなっています。